



キレル子ども

福岡いのちの電話理事

久保千春

(九州大学 総長)



おとなしくよく言うことをきいていた子どもが突然感情の爆発をおこす、すなわちキレルことが近年マスコミなどで多く報道されています。このように突然キレルのは、感情の抑制がきかない人です。その原因としては、1.感情のコントロールができない、2.ふだんは感情の表現や起伏が少ない、3.ささいなことでもストレスに感じてしまう、4.強いストレス状態にある、などが挙げられます。生物学的・心理学的観点からは、“三つ子の魂百まで”といわれるようにストレスの耐性や感情のトレーニングは幼少期に大きく形成されます。両親、特に母親への信頼と安心をベースにして、体で覚えていくことが必要です。また、現代は、テレビゲームやインターネットの仮想空間でゲームをする、人との付き合いが少なく対人関係の取り方が分かりにくい、などがあります。そのため人間関係のストレスを強く感じるようになります。

ところで、怒り、恐怖、不安などは大脳辺縁系の扁桃体の役割であり、その感情をコントロールしているのは大脳皮質の前頭葉です。キレル人は扁桃が興奮しやすく、前頭葉の活動が抑えられていると考えられています。一方、感情を言葉に出した場合、脳の扁桃体と呼ばれる部分の活動が低下し、右側の前頭葉の活性が上昇することが分かっています。すなわち言葉に出すことで脳の中の感情の回路が抑えられ、感情の調節がうまくいき、心が

安まると考えられます。感情を表に出すことによりキレルことが少なくなります。

私たちが行った研究「胎生期・乳幼児期の環境因子が成長後の心身の状態や行動に及ぼす影響」を紹介します。ネズミを用いて出生後早期の仔雄性ネズミを母親から分離した場合、通常飼育のネズミと比べ、思春期～青年期に攻撃行動を強く引き起こし、血液中の男性ホルモンのテストステロンが高値でした。すなわち離乳前の仔ネズミのストレス環境は、思春期を境に攻撃行動が発現し、その背景にテストステロンによる攻撃性の関与が考えられました。

また、幼児期のしつけが重要です。犬の場合は若ければ若いほどしつけの期間が短くて成長してからはしつけの期間が長くかかり、難しいと言われています。

このように幼少期の環境は、青年期の情動行動に大きな影響を及ぼすと考えられます。キレル子どもの対策には、乳児期のスキンシップや養育者との対応、幼児期のしつけや他者とのふれあい、小児期の自由な感情発現などが重要ではないかと思えます。

いのちの電話では、家庭、学校や職場での対人関係の問題、引きこもりや不眠、うつ、不安などの相談が多く見られます。本人のキレやすい感情のコントロールが背景にあることも考慮に入れて対応することが、重要と思われます。

北部九州豪雨で亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします

被災された方々にお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復興を祈っております。

2017年度 第2回

全体研修を3分科会で実施しました

2017年度の第2回全体研修は、8月19日（土）午前10時から午後4時まで福岡市博多区のパピヨン24の会議室にて行われました。恒例の分科会形式ですが、宿泊による研修はなく、3つの分科会でした。

講師は、西川一臣氏、瀬里徳子氏、岡秀樹氏。食事休憩を挟んだ6時間の長丁場でしたが、それぞれのテーマに沿って各講師が持ち味を生かした内容となりました。以下に、受講者の感想を通してその模様をお伝えします。



テレビ番組の録画を見る受講の皆さん

分科会A

「発達マイノリティの方々の理解と対話」

西川 一臣 氏

(和光中学・高等学校専任カウンセラー、日本のちの電話連盟インターネット・スーパーバイザー)

受講感想 (K. N)

今回、私がこの分科会を第1希望にしたのは、「発達障害」という言葉を日常生活の中でよく耳にするようになったからです。実際、電話相談でも聞くことができました。

私は、電話を受けるときにあまりいろいろな知識は持たない方がいいような気がしていて、この「発達障害」のことも何となく知っている程度でした。しかし、どういふものなのかを知っておいた方がいいのではないかと、いう気持ちが湧き、受講することにしました。

「発達障害」というのはどんなものなのか、実際どういふ症状なのか、社会でどう生活しておられるのか、西川先生のお話もDVDもロールプレイもどれも分かり易く、よく理解することができました。

何となく知っているではなく、やはりちゃんと知っておいた方がいいということを今回の研修で感じました。何となく知っている程度で通話者の話を聴き寄り添うことと、知ったうえで通話者の話を聴き寄り添うのでは違うと、私の中で認識が変化しました。

また、「発達障害」の症状がある方たちとの接し方、関わり方を学べたことで、日常生活でも私の心に変化があったように思います。この研修で感じる事ができた心の変化を、今後の相談業務、日常生活でも役立たせたいです。

今後も、「ちゃんと知る」を自分の心の引出しに入れておきたいと思います。



分科会B

「スーパービジョンを通して見えるもの ～対応困難な事例を体験する～」

瀬里 徳子 氏

(福岡市こども総合相談センターこども支援課、福岡のちの電話・木曜班スーパーバイザー)

受講感想 (Y. S)

まず研修参加するにあたって示された心構えは、「他者の発言に耳を傾ける」「自分と異なる意見もまずは受け止める」など。まさに日頃の電話相談とも共通している大切なルールでした。その後、参加者一人ひとりが自己紹介を兼ねて「相談員になった動機」



を紹介。皆さんが語られる言葉の重みに、相談員としてそれぞれの強い志や使命感が伝わってきて、皆さんとの距離が少し縮まったように感じました。

講義では、「対応が困難な事例とは…」「聴くことの重要性」など、相談員としての「心構え」や「聴き方」の基本を丁寧に説明していただきました。何年経っても、いや何年も経っているからこそ、基本に立ち戻り自分をリセットすることがとても大切だと感じました。

午後は、意外に難しかったのですが言葉を発せずジェスチャーで誕生日順に並ぶ、バースデーチェーンからスタート。並んだ順から3人ひと組になって、通話者、相談員、傍観者を順番に演じるロールプレイをしました。

「電話がつながらず青立って文句を言う通話者で、近所の人から悪口を言われている」「家事がうまくできない…と夫に文句を言われ自信をなくしている専業主婦。DVを受けている事にまだ気づいていない」など、設定されたお題は通話者しか知りません。

どのグループも役者揃いの迫真の演技で、フィードバックもかなり盛り上がっていました。通話者の感じ方によって相談員への評価が異なることが明らかになり、



そのようなロールプレイの醍醐味を感じるとともに、「対応に正解もない代わりに失敗もない」という瀬里先生のお言葉に、とても勇気づけられました。「苦手なロールプレイが今日はとても楽しかった」との感想が出たのも、

瀬里先生の温かいお人柄ゆえだと思います。

最後に自分の良いところやお互いへの感謝を分かち合い、本当に心が温まる良い研修でした。

分科会C

「スーパービジョンを通して見えるもの ～共感的理解を体験する」

岡 秀樹 氏

(足田病院カウンセラー、福岡いのちの電話・月曜班スーパーバイザー)

受講感想 (M. H)

今まで漠然と「相談者に深い関心と共感をもって寄り添う」と学んでいた。しかし、そのことをどこまで理解して電話を取っていたのか分からないままであった。今回研修に参加して共感の意味と聴き方が少し深まった。

いのちの電話は「…いつでもどうぞ」と、相手(の悩み)にいつでも開かれている状態であること。

他者の悩みや問題を理解するための方法として、自分の知識や情報、経験などを基に悩みや問題を評価、分類して一括りにすると、マニュアル的対応になることがある。いのちの電話では専門的な知識より、「少しでも理解したいという思いで」相手の立場に一步踏み込んだ対応が必要である。「適切に理解されること」に、より多くの効能がある。

共感 = 賛成はできないが想いは分かる。これは直感ではなく、ゆっくり聴くことでできる。

傾聴 = 相手の立場に身を置いて理解する「代理内省」の



ための作業。

理解する側にも主観的世界があり、相談者の視点の中心にたどり着く前に自分の有効だった考え方、自分の経験で応答してしまうことがある。悩みの中心がつかめない時は「何に困っているか」を聞く。自分の興味での質問はだめだ

が、理解するための質問は必要である。伝えたい内容是对話がないと伝わらない。共感するには特別な能力ではなく、共感しようという努力が必要。理解し合えると初めから思わない方がよい。上から目線ではなく、対等な立場で聴く。その努力を継続する。

また、同じような悩みでも、それぞれ悩みの深さは違う。人を一括りにしない。悩みは残念なことに病名を付けられ障害に入れられ、共感の枠外になり、治療のラインに乗せられる場合もある。「悩みは相手の所有物」と岡先生は言われる。物分り悪く、相手の言わんとすること、気持ちを理解する。

たかが「共感」、されど「共感」。「寄り添う」ための共感。少しでも共感できたと思えるように、地道にしっかりと聴いていきたい。

「未来に向けてより良く生きる ～仏教徒としてのあり方～」

平成 29 年 7 月 1 日 (土) 午後 2 時～(九州キリスト教会館 4F ホール)

福岡いのちの電話第30回総会で林覚竜氏の講演会がありましたので、その概要をお伝えします。

高野山真言宗を本山とする南蔵院で跡継ぎとして生まれた林覚竜氏。決められた人生に疑問を持ち、カメラマンの道に進もうと考えた時期もあったとのこと。しかし、自らがこの世に生を受けた運命、仏道の縁に思い至り、高校卒業とともに、仏道修行のため高野山に向かいます。大学に通う傍ら、高野山の訪問者が泊まる宿坊での雑務をこなすとともに、仏道修行を通じ僧侶としての資質を身につけていられました。

日本では宗教を信じていない人が75%を占め、信仰心が143か国中136位と世界でも宗教と縁遠い国という調査結果があります。生活の安定以外に、宗教を魔的な側面や損得で捉えているところにその原因があるのではないかと、林氏は考えています。宗教は何かの利益を授けるものではなく、よりよい人間として生きて行く指針を示し、導くものです。

結果や報酬を求めない、眼施、和顔施、言辞施、身施、心施、床座施、房舎施という「無財の七施」は、優しい眼差しや言葉、笑顔、奉仕、心遣い、仏道への敬意などを心掛けることの大切さを説くものです。また、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定という「八正道」は、日頃の考えや行いの一つひとつを御仏の教えに沿って正していくことを示します。地位や名誉、金銭にしがみつくなはなく、「七施」、「八正道」によって姿勢を正すとともに、生病老死の苦しみから逃れる心を育てる大切さを語られ、精進してほしいと締め括られました。



林 覚竜 氏

ルール 随 想 第9回

福岡いのちの電話評議員

藤林 武史

(福岡市子ども総合相談センター所長、医師)



自殺を思いとどまる究極の予防

子ども時代に数多くの辛い経験をした人には、大人になった時に、うつ病をはじめさまざまな心身の疾患の発症や自殺企図に至るケースが多いといった、有名な研究があります (Centers for Disease Control and Prevention: ACE study)。「児童期逆境体験研究」と訳され国内で紹介されることも増えてきましたので、ご存じの方もいらっしゃるかもしれません。ここでいう子ども時代の辛い経験とは、虐待やネグレクトが含まれますが、その他に両親間のドメスティックバイオレンス、家族の精神障害や薬物乱用など、直接子どもに危害が加わらない体験も含まれます。

しかし、皆が皆、心身の病気を発症するわけではありませんし、自殺行動を起こすわけでもありません。数々の苦労はありながらも、健康で幸せな人生を歩んでいらっしゃる方が大勢いることも事実です。では、その後の人生の大きな分かれ目はどこにあるのでしょうか？

心病む母親から育てられ、時には虐待的なことも経験してきた精神科医の夏苺郁子^{なつかり}さんは、ご自身の過去を振り返って、人との出会いの重要性を語っています (夏苺郁子「もうひとつの心病む母が遺してくれたもの」「人は、人を浴びて人になる一心の病にかかった精神科医の人生をつないでくれた12の出会い」)。それは、子ども時代に一緒にいてくれた親戚であったり、大人になってから話を聴いてくれた友人だったりします。どのような辛くて過酷な体験をしたとしても、人

との出会いと関わりは、安心と自信、将来の夢や希望を与えるものと思います。それは、私が児童相談所長を務めてきた15年の間に、多くの子どもたちやその周囲の支援者から学んだことでもありました。

児童福祉の制度の中に里親制度というものがあります。家庭の中で虐待を受けた子ども、自殺や事故で家族を失った子ども、親が病気で入院した子どもたちの中には、その後の何年間かを里親さんの家庭で暮らす場合があります。数カ月という短期間で元の家庭に戻る子どももいますし、大人になるまで里親家庭で暮らす子どももいます。いろいろなことで不安や心配になったり、明日からのことに怯えなくてもいい、安心で安全な生活は子どもの成長を育み、将来の希望を与えます。たとえ、短期間で実親の元に帰って行ったとしても、この期間の里親家庭で暮らした記憶は一生残り続けます。前述した夏苺さんは、幼児期に数年間伯母宅で過ごした生活が、何ものにも代えがたい大切な思い出として夏苺さんのその後の人生の「安定」と「回復」の礎となったと、書かれています。子ども時代に暮らしたもう一つの家庭での温かい体験は、大人になったときの心の防波堤となり、自殺を思いとどらせる究極の予防につながるのでしょうか。

この国には、まだまだ、里親のなり手が足りていません。子どもたちの将来にわたる幸せのために、里親制度に関心を持っていただける方が、一人でも多く増えることを期待しています。

里親についての詳しいことは
「福岡市子ども総合相談センター」へお問合せください。

【代表電話】 092-832-7100

【ホームページ】 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/kodomo/egaokan/>



第41期生の閉講式が行われました

9月1日（金）午後6時30分から、2年間の養成期間を終えた第41期生7名（内1名は休務）の閉講式、並びに電話相談員委嘱状授与が行われました。

林幹男理事長、五斗美代子常務理事、松尾公孝教育委員長、荒浪教育委員、相談員養成サポーター（9名）が第41期生の電話ボランティア認定を祝しました。閉講式の感想を以下に紹介します。

この9月1日、研修を無事終了して、電話ボランティアの委嘱状をいただきました。2年前の秋に11名でスタートした研修ですが、閉講式に臨んだ41期生は6名でした。半数近くに減った同期生に、このボランティアを続ける難しさを思い、10年、20年と長年継続していらっしゃる諸先輩方に改めて感服いたしました。

ただただ楽しく学んだ講義と、毎回毎回どうしたら良かったのだろうと悩んだ電話相談実習。まさに私にとっては「楽あれば苦あり」でした。

経験の無さ、スキルの無さなどに加えて、何事もはっきり理路をつけたい自分がさらに「苦」を呼び込んでいるのだろうと思います。そうした中であって、お互いをつないでいるのはこのときのこの電話一本だけでありながら、電話相談では確かに何か触れ合った、分かり合えたと思える一瞬があります。この経験が、悩みつつも私を電話へと向かわせる原動力だと今は思っています。

委嘱状を前に、さあ今からが本番、頑張るぞという意気込みよりも、大丈夫だろうか、続けていけるだろうかと不安の強い私ですが、分かり合えたと思える一瞬の感覚に励まされながら継続していければと思っています。課題はたくさんです。研修で学んだ電話相談の原則を忘れず、人を求めて電話をかけていらっしゃる方々の気持ちに寄り添うことができればと思います。

電話相談実習に精いっぱいゆとりのない私に、同じ志の仲間と楽しい付き合いができるようになるというねと、ひとこと夫が声をかけてくれました。これからは、同じボランティア仲間として楽しい時間を共に

できる関係も作っていきたいです。（41期生 J.K）

41期生の皆さま、無事閉講式を迎えられ、おめでとうございます。ボランティアのメンバーとして一緒にやっていけることをうれしく思います。閉講式の感想ではありませんが、これから電話をとっていくにあたっての応援の言葉を書きます。

このボランティアの時間、場所、仲間を大事にしたいですね。同期の人たちとの絆を大切にしていってください。

「どうしたら辞めないで続けていけるの？」みたいなことを聞かれることがあります。私は「目の前のことに集中する」ことの繰り返しで、今までやって来られたように思います。主役は電話をかけてこられる人ですから、私たちはそっと後ろからついていけたらいいですね。そっと後ろをついていくことの難しさを感じながら、言いたい言葉をこらえておくことの連続です。そういうときに湧きおこる言葉や感情をこらえているうちに、いつの頃か自分のクセに気付きました。自分のクセに気付いて電話をとると、少しだけそのことが手放せている自分に気付きます。そうして玉ねぎの皮をむくくらいの少しの積み重ねで私が緩んでいけるように感じています。それは私へのプレゼント、いのちの電話に関わることでいただいた感覚です。もっと緩んでみたいです。

続けることは大変なことです。続けることで得られるすてきなこともあるので、それを味わってほしいです。

（養成サポーター Y.N）

◆第43期のボランティア募集について

「福岡いのちの電話」第43期のボランティア募集は、8月31日で締め切りました。今年度は19名の応募があり、その内電話ボランティアが15名、事業ボランティアが4名でした。

開講式が10月4日（水）に行われ、それ以降、月2回ほどの講座や演習が2018年8月まで実施されます。

ご援助 ありがとうございます

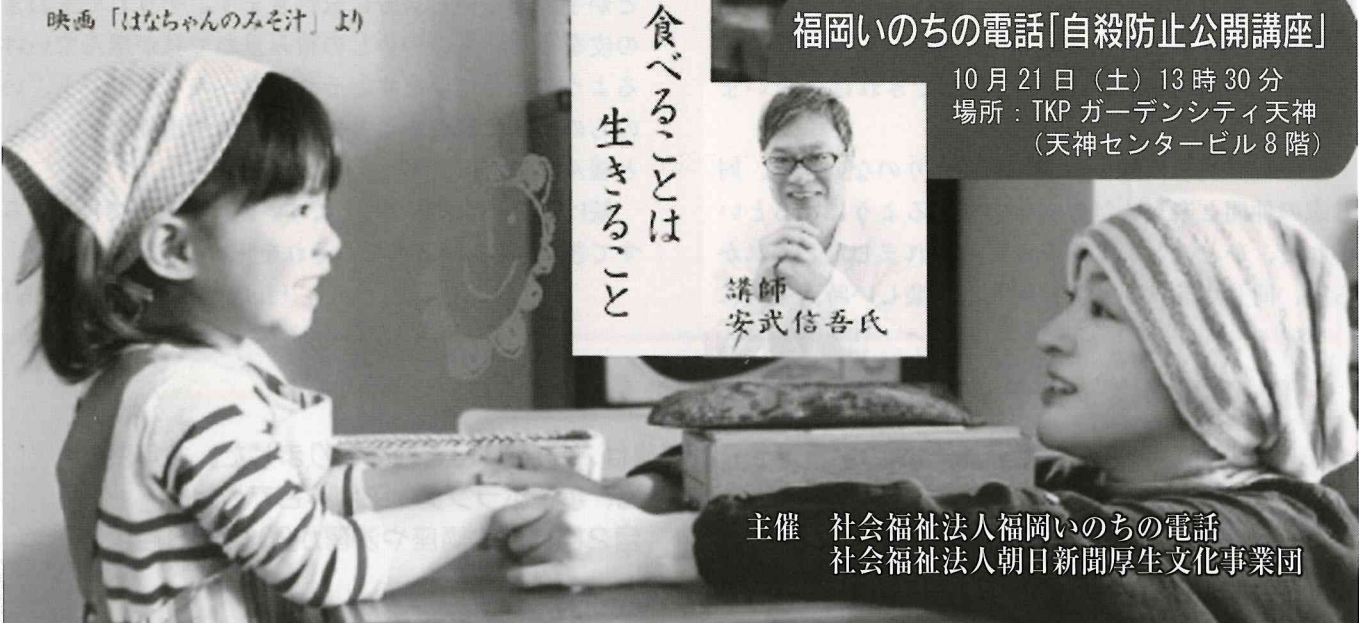
寄附感謝報告 2017年6月1日～8月31日 (敬称略・順不同)

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。


*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。

千人会					
山口雅子	10,000	松田高史	10,000	吉崎謙作	10,000
緒方佳晃((医)緒方内科医院)	10,000	弁護士法人 金子法律事務所	10,000	淵上亀之助	20,000
岡 多恵子	10,000	エミール保育園	10,000	荒木靖邦(荒木歯科医院)	10,000
長門博之(弁護士)	10,000	生田謙二	10,000		
山崎芙美子	10,000	山下裕彦	10,000	賛助会	
松永伸二((医)まつなが小児科医院)	10,000	山田篤伸	10,000	錦織靖子	3,000
久保カヨ子	10,000	山田久代	10,000	井上眞知子	2,000
中島昌子	10,000	野田フミ子	10,000	寄附金	
和智凧子	10,000	福元征四郎(福元歯科医院)	10,000	佐々木加奈子	3,000,000
内村英幸	10,000	石蔵富士子	20,000	井上雄介(九州債権回収(株))	10,000
田中みさこ	10,000	洞 庸雄(雷音寺)	10,000	勝木昭代	3,000
		山口雅弘(㈱山口商事)	10,000		

映画「はなちゃんのみそ汁」より



食べることは
生きること



講師
安武信吾氏

福岡いのちの電話「自殺防止公開講座」

10月21日(土) 13時30分
場所: TKP ガーデンシティ天神
(天神センタービル8階)

主催 社会福祉法人福岡いのちの電話
社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団



林 覚竜	17,958	コカ・コーラウエスト(株)	30,000	九州朝日放送(株)	60,000
光澤智吉	5,000	(株)福岡銀行	100,000	(株)マルタイ	30,000
小山田浩定(総合メディカル(株))	100,000	(株)開聖リアルエステート	30,000		
ラスカ・佳子	10,000	アズビル金門(株)	30,000		
井上康市	10,000	ジャパン福岡ペプシコーラ販売(株)	30,000		
関根敏子	4,000	(株)ふくや	50,000		
真鍋順子	10,000	(株)西日本シティ銀行	100,000		
牛島範夫	20,000	一般社団法人 福岡市医師会	30,000		
大石桂二	3,000	越智産業(株)	30,000		
九州電力(株)	200,000	九州旅客鉄道(株)	100,000		
		(株)電気ビル	30,000		
		九電産業(株)	30,000		
		九州石井運輸(株)	30,000		
		(株)新出光	100,000		
		(株)九州エース電研	300,000		
		リンナイ(株)九州支社	30,000		

法人会

合名会社 堀米商店	30,000
九州八重洲(株)	30,000
西日本技術開発(株)	30,000
(株)サイブモータース	30,000

商品券

山下邦子	4,000
------	-------

コカ・コーラ支援自販機

(株)紙谷(朝日新聞鳥栖販売店)	17,102
(株)西日本新聞社(本社)	20,597
〃 (製作センター)	8,933
財恵愛団(九州大学病院内)	101,175
西部ガス(株)(パピヨン24内)	144,546
(株)福岡住宅センター (鳥飼1丁目パーキング)	7,178
(有)ダイキ通信工業(自社内)	24,570
南蔵院(JR城戸南蔵院駅)	39,540

ご寄附は下記の振込先までお願いします

銀行口座：口座名義＝社会福祉法人 福岡いのちの電話
 福岡銀行赤坂門支店 (普) 1147617
 西日本シティ銀行天神支店 (普) 2131458

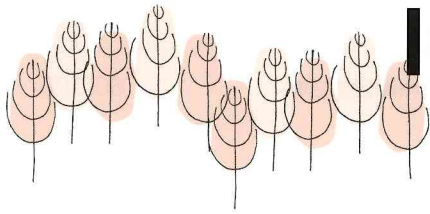
郵便口座：福岡いのちの電話千人会(千人会) 01710-1-36652
 福岡いのちの電話(賛助会員・一般寄附) 01720-9-1037

千人会 1口1万円/年(何口でも)
 賛助会 1口2千円/年(〃)
 法人会 1口3万円/年(〃)

ご面倒をおかけいたしますが、よろしくお願い申し上げます。

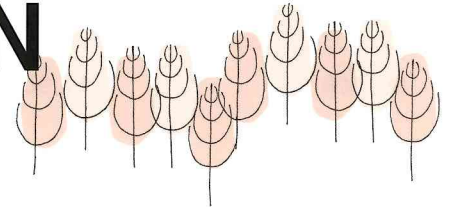
税制の優遇措置があります

社会福祉法人の許可を受けておりますので、寄附をされた場合、法人の場合は損金扱いに、個人の場合は年間所得の25%まで寄附控除が受けられるといった、税制上の優遇措置の対象となります。また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌

2017.6.1~8.31

- | | | |
|--|--|--|
| <p>6月</p> <p>1 鶴城ライオンズクラブ例会・卓話</p> <p>6 広報活動班会</p> <p>7 受信資料検討班会</p> <p>8 第42期生養成講座
(講師：衛藤 暢明氏)</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
自主研修「ケースと私・事例研究」</p> <p>13 手づくり会
事業ボランティア会
相談活動運営委員会</p> <p>14 第3回教育委員会</p> <p>17~18 インターネット「福岡エリア相談員養成研修」</p> <p>19 事務局会議
第3回理事会</p> <p>21 第42期生養成講座 演習④</p> <p>22 研修運営班会</p> <p>23 社会資源研修班会</p> <p>28 自主研修「FINDカフェ」</p> <p>7月</p> <p>1 第30回定期会員総会
会報130号発行</p> | <p>5 福岡市監査
受信活動検討班会
第42期生養成講座
(講師：松浦 賢長氏)</p> <p>8 社会資源研究班会</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」</p> <p>11 相談活動運営委員会</p> <p>12 第4回教育委員会</p> <p>16~17 電話相談員養成サポーター継続研修(講師：野島 一彦氏)</p> <p>19 研修運営班会
第42期生養成講座 演習⑤</p> <p>20 2017年度後援会・法人合同役員会</p> <p>25 自主研修「FINDカフェ」
事務局会議
手づくり会</p> <p>28 第4回理事会</p> <p>29~30 第42期生養成講座宿泊研修「人間関係訓練Ⅱ」
講師：林 幹男氏</p> <p>31 会報企画会議</p> <p>8月</p> <p>4 チャリティイベント「里帰り納涼寄席」</p> | <p>5 連盟主催研修担当者福岡エリア研修会</p> <p>8 手づくり会
事業ボランティア例会
電話相談員養成サポーター会</p> <p>9 第42期生養成講座
(講師：五斗 美代子氏)
広報活動班会</p> <p>10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」</p> <p>16 第5回教育委員会
(電話相談員養成サポーター交流会)</p> <p>19 第2回全体研修
分科会A 講師：西川 一臣氏
分科会B 講師：瀬里 徳子氏
分科会C 講師：岡 秀樹氏</p> <p>22 事務局会議</p> <p>23 第42期生養成講座
(講師：松尾 公孝氏)</p> <p>28 インターネット相談事業委員会(東京)出席</p> <p>29 第5回理事会</p> |
|--|--|--|

【編】集【後】記

北部九州豪雨災害復興への槌音が響く中、いまだ不自由な生活を余儀なくされていらっしゃる方々に心からのエールをお送りいたします。昨日までのごく普通の幸せな暮らしが一変する困難を思うとき、私たちは決して他人事ではない痛みを覚えます。私たちにできる最善のお手伝いとは何かをあらためて考え、行動していきたいと思えます。電話相談という限られた活動ではありますが、24時間365日、一日も休まず、電話だからこそ可能な心の交流が確かにあります。電話の向こうからの何気ない一言に勇気をいただくこともあります。支え、支えられて人は生かされているということを実感できるのがボランティアかもしれません。そしてまた、ボランティア活動の意義を深くご理解いただきご支援くださる皆さまとの交流も私たちの支えです。いつも本当にありがとうございます。

(広報班 M. T)

2017年6月~8月

電話受付件数

受付件数 3,474件

延べ相談員数 921人
(日平均10.0人)

延べ受信時間 110,909分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7-2F
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス
<http://www.f-inochi.org/>発行人 林 幹男
編集人 古賀 俊次

この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。